



山田光春 議員

広陵町PTA連絡協議会発行の
“ほっとタイム”について

問 ▼ほっとタイム(平成23年12月2日発行)の内容について、「中学校給食実施を求める請願書」が全会一致で採択(16日)され実現に向け、一歩前進しますことを保護者等に伝えるのがPTA連絡協議会の役目だと思ふ。▼PTA連絡協議会の有志10人で提出した請願書をなぜPTA連絡協議会だよりとして発行し配布したのか疑問を持つ。▼「給食実施を求める請願書」のチラシを読まれて中学校給食問題に政治的活動があることに危機感を持っていますと、「ほっとタイム」に書いてあるが全外的外れな言い草もつけられているだけだ。これがPTA連絡協議会だよりだと思うとOBとして情けなく地に落ちたと感じる。教育委員会は内容をチェックして配布を許可したのかを聞く。▼平成24年1月16日付けで「請願提出時における参考人に対する議員発言の取り消し並びに謝罪を求め

ることにについて」3人のPTA会長から抗議文が議会に届いたが、発言内容が具体的に示されていないので回答を求めたら、2月末に議会事務局で2人の会長が議事録(平成23年12月14日総務文教委員会)を読まれ、この部分だと付せんをつけ抗議すると言った。こんな失礼なこととは。文書を持って応えるべきだし、町PTA連絡協議会の代表として責任ある行動を取るべきだ。教育委員会事務局もこういう重大な問題であり、当然抗議文を提出することは知っていたはずだ。知っていたのか。協議があったのかを聞く。▼参考人として関係者に話しを聞きたい。

平岡町長 中学校給食についていろいろな団体が活動されていることは理解している。広報を組織として配り知ってもらうことは、その責任は組織が取るべきだ。しかし、これほどまでに中学校給食に対し心配をされ、心をわずらわしているということにお詫びする。とやかく言わずに前向きに進める。

○その他の事項

- ・ 中学校給食の実施を求める請願採択！町長自身実施に向けての方針を明確に
- ・ 広陵町団体補助金等適正化条例について



青木義勝 議員

補助金交付団体の現状・
増減額の考慮は

問 私の行政への取り組みの基本である「限られた予算の意義ある適正な配分」を原点にしており、各団体の三役さんたちはおのおの分野では当然有識者であり、町のリーダー的存在の方々であります。町民の大勢はそう認識されています。各補助団体の活動は「町行政を補完する事業」及び「公益的性格の強い事業」である。このことを踏襲されておられて、そして助言及び指導をしていただいています。より以上にお願したいと思っています。①現在の交付団体の数②交付団体と認定する根拠と基準は③交付団体への新たな申請の有無④交付金額決定の根拠は⑤過去に取り消した減額の有無⑥交付団体から増額案の有無以上です。当然、行政及び町民に対して多大の寄与されて意義ある活動をされている団体については補助金の増額をすべきで、逆に活動の少ない団体

には減額を。現在存在理由のなくなった団体には廃止も、もちろん団体とは十分協議して、ご理解を得るのは当然ですが、このことが「限られた予算の意義ある適正な配分」をご理解していただけるきっかけとなると思ひまして、この質問をします。

平岡町長

①「各種団体年度別補助金予算一覧表」では31団体、約4,800万円。他に各大字・自治会へは約1,240万円。②要綱で公益または公共の福祉の増進を基本に支出している。③新設の抑制に努めている。④計画書、収支予算書等必要な書類の提出を義務づけて、審査の上、決定、町が全額補助の場合は剰余金が生じたときは返還を求める。⑤現在のところなし。⑥団体の自立運営や行政改革を推進するため過去に一律2割カットを実施し、随時見直しをしている。増額の要望はあったが協力してもらっていない。青木議員お考えのとおり、限られた財源の中で費用対効果を見極めて行政運営に努めます。各種団体は町行政を補完する業務を担っていただいております。感謝しています。